

世界遺産登録に向けて

西三川砂金山(2) — 砂金発見伝説 —

『佐渡古実略記』の「西三川金山之事」の項に、砂金発見の様子が載っています。

この地の百姓が葦(にら)を植えて商っていた。ある時、港に着いた船主が葦を買い求めたところ、根に付いた土が光っているのを見つけた。

よくよく気をつけて見ると、それは砂金であった。そこで、船主は葦を売った百姓に「この葦畑にいるミミズは、大切な妙薬となるから、その畑の土を買いいたい」と言うと、百姓は、そういうことであればと、畑に連れて行った。そこで、船主はその畑を買い取り、国元から人足を呼び寄せてそこを穿り、土を川で流して過分の砂金を得た。このことを土地の者が知るところとなり、穿(ほり)流しによって1日の上納が砂金18枚ずつもあがるようになったので、その場所を、笹川十八枚というようになった。

また、『佐渡—伝承と風土』(磯部欣三著)に紹介されている口碑では、「小木に着いた船主が、西三川の『備前と

いう屋号の畑の葱(ねぎ)を買ったのが、砂金山発見の始まりである」とあります。葱がどんどん売れるので、近所の家もネギを洗って出したらさっぱり売れない。あとで葱の根に砂金があるのがわかって、大もうけしたといえます。

なお、秋田の白根金山には、山芋(やまいも)の根に砂金がついていたことがきっかけで発見された伝説があります。ここでも、ときどき旅人が来て、薬にするからと言ってこの地の土を持ち帰ったという話が伝わっています。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



田植え中に茶碗7分ほどの砂金を得たという伝説のある西三川医王寺付近の水田

化石は化石でも…

恐竜の骨、二枚貝、葉っぱ、サメの歯：化石というと、これらのものが思い浮かぶのではないのでしょうか。しかし、これら以外にも、恐竜の足跡や糞、ウニの這い跡、カニの巣穴なども化石として残ることがあります。このような化石を、生痕(せいこん)化石といえます。

貝殻やサメの歯などは水によって流され、その生物が生きた環境とは異なる場所で堆積(たいせき)することとがあります。しかし、巣穴などの生痕化石の場合は、その生物が生きた環境と同じ場所であることが多いので、昔がどのような環境であったかを推測するのに役立ちます。たとえば、恐竜の足跡からは、草食恐竜が集団で移動していた様子などを知ることができ、巣穴の化石からは、地層の上下を判定することが可能です(地層は、長い時間が経つと上下が逆さまになることがあるため)。

この生痕化石を専門に研究する生痕研究グループという団体があります。定年退職した教員などの有志が



恐竜の糞も生痕化石です

集まり、生痕化石を対象に日々研究を行っています。拠点は上越市ですが、年に数回佐渡に渡り、調査を行っています。

生痕グループは、これまでも、佐渡の平根崎に産する生痕化石(調査研究報告書第1号掲載や、吾潟に産する生痕化石(調査研究報告書第2号掲載)についての報告をしています。生痕グループの研究により、平根崎に産する生痕は、アナジャコのような生き物の巣穴ではないかということがわかりました。アナジャコは、大きなザリガニのような生き物で、現在ではマンガローブ林の泥の中に穴を掘って生活しています。つまり、平根崎の地層は、かつて沖繩のようなマンガローブ林の繁った環境であったという推測ができます。さらに詳しく知りたい方は、調査研究報告書をご覧ください。

◆教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室(佐渡博物館内) ☎52-2447



佐渡ジオパーク

ジオパーク、推進日記

42